

農作物技術情報 号外 台風対策

発行日 令和6年8月14日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

台風7号は、発達しながら北上し、17日頃に本県に最も接近するおそれがあります。
今後の気象情報に注意し、農作物被害の発生を防止するための対策を適切に行いましょう。

- ◆台風5号の大雨により、圃場や作業道がぬかるみ、事故の起こりやすい条件となっています。作業は複数人での実施を基本とし、一人で作業する場合は緊急連絡用の携帯電話を忘れずに持つなど、慎重に作業しましょう。家族や仲間と声をかけ合うことも重要です。
- ◆人命第一の観点から、圃場の見回り等については、大雨や強風が治まるまでは行わないでください。また、大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、圃場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行ってください。
- ◆台風通過後は、圃場からの速やかな排水を最優先に取り組んでください。

水 稲

排水路等の点検整備と冠水後の圃場管理を万全に！

◎ 事前対策

- (1) 県内の水稻は乳熟期を迎えています。
登熟初期の高温や、乾燥による水ストレスは、玄米品質の低下につながります。
特に台風通過時は高温乾燥風（フェーン）を伴う場合があるため、湛水管理を行います。
- (2) 浸水や冠水に備え、排水口・排水路を点検し、詰まりの原因となるゴミ類の除去に努めます。

◎ 事後対策

- (1) フェーンによる障害が予想される場合、水を絶やさないようにするとともに、積極的に水の入れ替え（夜間かんがい）を行い、水温・地温の引き下げと根の健全化を図ります。
- (2) 冠水した場合は、葉が少しでも早く水面に出るよう、すみやかな排水に努めるとともに、濁水が流入した圃場では水の入替えを行います。
- (3) 冠水した稲は水分を消耗しやすいため、湛水管理を行います。
本年は登熟期間の高温が予想されるため、積極的に水の入替え（夜間かんがい）を行い、水温・地温の引き下げと根の健全化を図ります。早期落水は品質低下につながるため、落水時期は、排水良好な水田で出穂後 35～40 日、排水不良田で 30～35 日とします。
- (4) 沿岸部において、高潮害（潮風害）の恐れのある圃場では、応急的に水の入替え・かけ流しを行い、塩分の洗い流しを図ります。
- (5) 圃場の排水口・排水路にゴミなどが詰まった場合は、安全な立入りが可能となったことを確認した後、（必要に応じて土地改良区など関係機関と連携しつつ）早めに排水設備を点検し、機能復旧に努めます。
- (6) 圃場内にある流木や瓦礫・土砂などの漂着物は、機械収穫などの作業に支障をきたすため、退水後、できるだけ速やかに取り除きます。ただし、状況によっては工事等が必要な場合がある

るため、無理な作業は行わず、関係機関に相談したうえで対応します。

大豆

排水対策と病害防除を十分に！

◎ 事前対策

圃場表面の排水を促進するため、周囲溝や排水口などを点検・補修し、土壌表面水のすみやかな排水に努めます。

◎ 事後対策

- (1) 圃場が浸水、あるいは冠水した場合は、一刻も早く排水する必要があります。圃場内のゴミ等を除去して、土壌表面水の速やかな排水に努めます。
- (2) 倒伏した株は、地面に接しないよう株どうしを重ねて持ち上げておきます。また、根の健全化を図るため、圃場表面が乾いてから畝間を浅く中耕したり、乗用管理機で畝間を走行するなどして、根圏に酸素を供給します。圃場に入れるか確認して慎重に作業してください。
- (3) 台風通過後は、風雨により茎葉が傷ついたり、圃場の滞水などにより、一般的に病害が発生しやすくなりますので、大豆の生育状況をよく観察し、必要に応じて防除を行います。

野 菜

排水対策と施設の保守点検を行い、通過後は草勢の早期回復を！

◎ 事前対策

【露地栽培】

- (1) 大雨に備え、排水溝の整備・点検を行います。特に、圃場外からの浸入水を防止するため、圃場の周囲にあらかじめ排水溝を設けておきます。
- (2) 強風に備え、圃場周囲に防風ネットを設置している場合は、緩んでいるワイヤーや針金を張り直し、ネットの破れている部分は補修します。
- (3) 強風で、支柱が抜けたり倒伏する恐れがありますので、畝の両端や所々で支柱を補強します。また、支柱・ネット等への茎葉の誘引状況を点検し、しっかり固定します。
- (4) 収穫可能なものはできるだけ事前に収穫を終えます。

【施設栽培】

- (1) 大雨に備え、ハウス周りの排水溝の整備・点検を行います。特に、ハウスの外からの浸入水を防止するため、周囲にあらかじめ排水溝を設けておきます。
- (2) 強風に備え、ハウス周囲に防風ネットを設置している場合は、緩んでいるワイヤーや針金を張り直し、ネットが破れている部分は補修します。
- (3) ハウスバンド（マイカー線）が切れていないか、緩んでいないかを点検するとともに、ビニールの破損があれば補修しておきます。筋交いなどの補強を実施して強風に備えます。
- (4) 収穫可能なものはできるだけ事前に収穫を終えます。

◎ 事後対策

【露地栽培】

(1) 排水対策等

圃場にたまった水はただちに排水し、長時間滞水しないように努めます。排水後、圃場作業が可能になったら、①マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす、②畝間の中耕を行う等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

- ・台風通過後は、冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害が発生しやすくなっていますので、品目ごとの防除暦に従って殺菌剤を散布し、病害の拡大を防ぎます。
- ・茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけ洗い流した後、殺菌剤を散布します。
- ・きゅうりはべと病、炭疽病、褐斑病、トマトは灰色かび病、疫病、ピーマンは斑点病、キャベツは株腐病、軟腐病、レタスは腐敗病、軟腐病、ねぎはべと病、軟腐病を対象に防除を行います。
- ・草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い倍率で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

(3) 整枝、摘葉、摘果

果菜類では、強風で主枝が損傷した場合には側枝を利用し主枝更新を行います。また、傷んだ茎葉や果実は摘除して草勢回復を図ります。

【施設栽培】

(1) 排水対策等

ハウス内に水が浸入した場合はただちに排水し、長時間滞水しないように努めます。排水後、圃場作業が可能になったら、マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

- ・強風でハウスビニールが破損し風雨にあたった場合などは、冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害が発生しやすくなっています。また、ハウスの閉め切りによっても加湿が助長されるので、換気を行い湿度を下げます。
- ・殺菌剤の散布は、品目ごとの防除暦に従って行い、病害の拡大を防ぎます。ほうれんそうでは特にべと病が発生しやすくなるので防除を行います。
- ・茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけて洗い流した後、殺菌剤を散布します。
- ・草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い濃度で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

(3) 整枝、摘葉、摘果

果菜類では、強風で主枝が損傷した場合には側枝を利用し主枝更新を行います。また、傷んだ茎葉や果実は摘除して草勢回復を図ります。

花 き

排水対策と風による倒伏対策を十分に！

◎ 事前対策

- (1) 収穫期を迎えている圃場では、開花状況にあわせて早めに収穫を終えます。
- (2) 圃場外からの水の侵入を防止するため、用水路の点検を行い、ゴミの除去や壊れた箇所を補修を行います。また、増水によっていつも水が溢れる場所は、土のう等（肥料袋に土を入れたもので代用可能）で補強します。
- (3) 水のたまりやすい場所は、速やかに排水できるよう事前に排水溝を設けておきます。併せて、排水路を点検し、上述した用水路と同様に対策を講じます。
- (4) 支柱やネットの強度を点検、補強します。ぐらつく支柱は打ち直すか打ち込みし、風の影響を受けやすい圃場は支柱を増設します。ネットは適正な位置に調整し、たるみがある場合はネットの両サイドにロープを入れて補強します。

また、横木の設置、増設は、支柱・ネットの補強に有効です。

- (5) パイプハウスでは、ハウスバンド（マイカー線）が切れていないか、緩んでいないかを点検します。被覆資材の破損が拡大しないように、ビニールの小さな破れや傷の補修を行います。

また、風が強い場合、施設を閉め切ることになりますが、湿度が上昇して灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので循環扇等で空気を攪拌して予防に努めます。

◎ 事後対策

- (1) 株の立て起こし、支柱・ネットの修復

強風によって株が倒伏・傾倒した場合は、時間が経過するほど茎の曲がりに戻りにくくなるので、風が弱まったら直ちに株を立て起こします。併せて、支柱・ネットを修復します。

- (2) 圃場の排水

圃場にたまった水は、速やかに排水します。特にキク類では、萎ちょう症状（水焼け）が発生しやすくなるので、長時間滞水しないよう努めます。

- (3) 病害対策

圃場の冠水や多湿、茎葉の損傷、泥の茎葉への跳ね上がりにより、病害が発生しやすくなります。品目ごとに農薬の使用基準や各地域の防除暦などに従って殺菌剤を散布します。

りんどうでは、茎葉の損傷により灰色かび病や黒斑病、キク類では、多湿により白さび病の発生が助長されるので注意します。

薬剤散布する際は、株に付着した泥を洗い落とすため、動力噴霧機の圧力を高めにして十分量を散布します。併せて、施設栽培では換気を徹底し、施設内の湿度の低下を図ります。

- (4) 被害株及び茎葉の除去

出荷不能となった株や折損した茎葉は、圃場外に持ち出して処分します。

果 樹

防風対策、排水対策により被害の軽減を！

◎ 事前対策

りんご

- (1) 極早生品種は、果実品質（硬さ、地色など）と散布した農薬の安全使用基準（収穫前日数）を確認し、収穫が可能なものは、速やかに収穫を進めます。
- (2) 防風ネットを設置している園地では、ネットの張りを点検し、緩んでいるワイヤーは張り直し、破れたネットは張り替えるなど十分に効果が現れるよう準備します。
- (3) わい性樹は強風で倒伏することがあるので、主幹を支柱に2～3ヵ所結束します。長大な側枝を持つ樹形であれば、一層、バランスを崩しやすいので、丈夫な支柱で支え、はずれないようしっかり縛り固定します。幼木も忘れずに支柱に結束します。
- (4) 高接ぎ樹では大切な更新枝を保護するよう添え木をします。
- (5) 降雨による表面水を速やかに排水できるよう、予め排水溝を設けておきます。

ぶどう

- (1) 防風施設の設置、見直しを行います。（事前対策りんご（2）に同じ）
- (2) 棚が倒壊しないよう、棚内部の力線に補助支柱を配し、周囲柱、隅柱を補強します。
また、雨よけハウスは、ハウスやフィルムが飛ばされないよう、ハウスバンドやフィルム留め具等の点検を行い、ビニールの破損があれば補修します。
- (3) 降雨による裂果の発生や、土壌が軟弱化しアンカー等が浮き上がることを軽減するため、排水溝を切り、速やかに排水できるよう対処します。

◎ 事後対策

りんご、ぶどう

- (1) 強風や雨により地盤が緩み、樹が斜めに傾いたり、横になった場合の立て直しは、できるだけ早く行います。ただし、そのまま不用意に引き起こすと、残っていた根も切ることがあるので、倒れた側からスコップで少し掘り下げるなど、注意深く戻します。また、すぐに起せない場合は、露出した根に土をかけるなどして乾かないようにします。
- (2) 滞水により枝に付着したごみ、果実の泥を排除します。また、果実に腐敗等が確認された場合は速やかに取り除きます。
- (3) 園地が冠水した場合や、枝葉や幹に無数の傷が生じている場合には、疫病などの果実腐敗性病害やふらん病など樹体病害の感染の恐れがあります。このような場合は、定期防除を早めるか、特別散布で殺菌剤を全面散布し、感染を予防します。また、側枝や大きい結果母枝が折れた場合には、傷口をなめらかに切り、塗布剤を塗布します。

畜 産

転作田の排水対策の徹底、停電時対応の確認を！

◎ 事前対策

- (1) 飼料作物を作付している転作田では、排水溝の点検を行い、雨水の排水を促します。特に、とうもろこしは湿害に弱いので、排水対策を徹底します。
- (2) 強風により畜舎や施設の破損が懸念されるので、畜舎周辺を点検し、必要であれば修繕や補強を行います。風雨でカーテン等が飛ばされないように固定・補強します。また、畜舎内に雨水が入らないよう施設の点検等を行います。
- (3) 停電により、搾乳が出来ない場合を想定して、発電機の準備や使用方法を確認しておきます。また、可能であれば貯水タンクに水を確保しておきます。
- (4) 草地や敷地内で、雨水が滞留しやすい場所にラップサイレージがある場合は、影響を受けない安定した高めの場所に移動します。
- (5) 紙袋の濃厚飼料等は、雨がかからない場所に移動するか、シートで被います。
- (6) 河川や用水路等水辺近くの圃場で放牧や獣害用の電気柵を設置している場合は、念のため電牧器本体を撤収し、浸水等による紛失、故障等を防ぎます。

◎ 事後対策

- (1) 圃場が滞水した場合は、速やかに排水するよう努めます。飼料作物の収穫時には、飛来物が混入しないように注意します。
- (2) 台風の通過後に、とうもろこしの折損や倒伏が発生した場合、軽度の倒伏では立ち上がり期待できるので、そのままの状態にしておき（手で直すと茎が折れることが多い）、雌穂の登熟を待ち、黄熟期に収穫します。また、倒伏・折損程度が著しく、収穫適期前に利用する場合は、給与の際、他の飼料との併給等により、多量給与することを避けます。
- (3) 倒伏・折損被害が更に著しい場合および土砂が圃場に流入して収穫不能となった場合は、速やかにまき直しのための圃場準備を行い、ライ麦やイタリアンライグラスを播種して来年度の自給飼料の確保を図ります。
- (4) 倒伏したとうもろこしの収穫は、トラクタで茎葉をできるだけ踏まないように走行方向を決め、ハーベスタの走行速度も控えめにし、土の混入を避けるため高刈して収量を確保します。また、倒伏し枯れあがりが進んだものは切断長が粗くなりやすいので、詰込み密度を確保するため十分に踏圧するとともに、乳酸菌等の添加材利用による品質確保に努めます。
- (5) 畜舎内に浸水や雨漏りがあった場合は、畜舎が高温多湿かつ不衛生となるので、台風通過後は畜舎やその周辺の排水を徹底し、排泄物や汚れた敷料の除去、牛床等への消石灰散布や新しい敷料の投入、空気の入替え等による乾燥を図ります。

- (6) 停電になった場合は、通電後に搾乳機器の確認を行います。また、給水・給餌等の動作も確認します。
- (7) 停電で搾乳が大幅に遅れた場合は、前搾り乳の凝固物（ブツ）の有無を確認します。乳房炎が疑われる場合はクォーターミルカで搾り分けするとともに、体調の変化も併せて確認し、異常時は獣医師の診察を受けます。
- (8) 電気柵を設置している場合は、飛来物の撤去や破損箇所の確認・修繕等、漏電補修を行った後に通電します。

次号は8月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。